

せいきょう連ニュース

岡山県生活協同組合連合会 TEL : 086-230-1315 HP : <http://okayama.kenren-coop.jp/>

会員生協トピックス

岡山大学生協と連携し岡大生らに おかやまコープ 「食の応援セット」贈呈

新型コロナウイルスの影響が長期化し、大学に行く機会が限定されるなど困難な状況に置かれている大学生の食を応援するため、岡山大学生協と連携し「大学生の食の応援共同事業」を行います。

第1弾として、新入生やミールカード利用者ら3500名にジュースやお菓子が入った「食の応援セット」を贈呈。3月30日、岡山大学にて行われた贈呈式では、おかやまコープ組合員の代表が直接学生に手渡し、受け取った学生からは「一人暮らしなので、栄養バランスを考えたジュースはとてうれしい」などといった声をいただきました。

今後、おかやまコープで行っている「自分の食べ方をはかろう！食習慣チェック」での食育応援や食材提供なども検討していきます。



岡山大学生協

「食の応援セット」贈呈式

新型コロナウイルスの影響が長期化し、困難な状況に置かれている大学生を支援するとともに大学生協の「ミールカード事業」を応援いただく「大学生の食の応援共同事業」の第1弾として、3月30日に「食の応援セット贈呈式」が開催されました。

当日は岡山大学の学生に「食の応援セット」を贈っていただくおかやまコープ平田理事長からご挨拶と目録の贈呈をいただき、また、おかやまコープ組合員理事の岡崎さんから岡大生を代表して岡大生協学生理事の鳥羽さんに「食の応援セット」を贈呈いただきました。

続いて、今回の生協間の「大学生の食の応援共同事業」に対して、岡山大学教育・国際担当理事佐野副学長からのメッセージが披露されました。

その後「新入生サポート会場」に移動しおかやまコープ組合員理事の方々より、新入学の手続きに訪れた新入生に、コープ商品のミックスキャロットやチョコレートなどが入った「食の応援セット」を手渡ししていただきました。



東日本大震災復興支援交流会開催

おかやまコープは東日本大震災の発災から10年の節目として、「忘れない3.11東日本大震災復興支援交流会～そして未来へ～」を2月22日に開催しました。当日は被災地とオルガホール、4エリアの拠点をオンラインでつなぎ、自宅視聴を含め総勢85名が参加しました。

AMD A大槌・健康サポートセンターや岩手県立大槌高等学校、福島県生協連などの皆さまから10年間を振り返る活動報告をいただき、リレートークでは「教訓をどう生かすか」というキーワードで、質疑応答を行いながら理解を深めました。交流会を通して、今後もつながり続けることや、教訓をしっかりと心にとめて、岡山の地で生かしていくことを確認できました。



合計9会場をオンラインでつないで開催

岡山医療生協

SNSで支部旅行

岡山医療生協操南支部では「映像で楽しむ北海道の旅」を開催しました。コロナ禍で支部の旅行が中止される中、新たなカタチの支部旅行です。急な企画で「お知らせチラシ」が間に合いませんでしたが、口コミだけで25人の参加でした。YouTubeやGoogle Earthなどを使用し北海道の自然や人気観光地を映像で鑑賞しました。参加者からは「若いころに行った北海道を懐かしく見ました」「行っていないところがあつたので、またゆっくり行ってみたいです」「コロナが収束したら実際に旅行に行きたい」などの感想を頂きました。最後に参加者のみなさんには北海道の名産品「白い恋人」のプレゼントも用意されていました。実際に行く事が出来る日を願いつつ、今出来ることを支部の皆さんの知恵で乗り切りたいと思っています。



映像で旅行を楽しむ参加者



iPadを使ってリモートタッチケア

「母と子のタッチケア」をリモート開催

コロナ禍で活動が制限されることが多くなっていますが、その反面、リモートによる会議や班会、学習会、YouTubeの活用などSNSの利用が進んでいます。

岡山医療生協では要望の多い「母と子のタッチケア」をリモートで開催しました。会場のiPadと参加者4人のスマートフォンを結んでの開催です。カメラの固定や音量の調整など試行錯誤しながらの実施でした。

タッチケアは子どもたちが大きくなる前で行えば実施できません。一人ひとりに対応しての指導はコロナ禍での実施は大変喜ばれました。参加者からは「赤ちゃんをカメラに写すのが難しかった。」「クリスマスツリーや音楽など、とてもいい雰囲気を楽しむことができ、ありがとうございました。」「お話タイムは、みなさんのお話が聞いてよかったです。」などの感想が寄せられました。これからも様々な形でのSNSの利用を考えていきたいと思っています。

倉敷医療生協

豊かな内容で取り組まれた班会

新型コロナ感染予防のために、班会内容の工夫や変更で、今までにない豊かな内容で班会が取り組まれています。

班会開催数も、昨年1万回を超えた開催数に迫るところまで回復しました。

多くの地域で、参加者の住んでいる地域の自然や史跡を生かし、身近な場所での班会開催がすすんでいます。

浅口市の鴨方支部では、地域の「八十八カ所巡り」を活用したウォーキング班会に取り組んで、「健康づくり」・「つながりづくり」・「地元再発見」を楽しんでいます。



津山医療生協

YouTube動画とDVDを作成

2020年10月にアップを始めた津山医療生協のYouTubeチャンネルは2021年4月1日現在、6つの動画がアップされています。内5つは体操です。この2月には感染予防の意味も込めて、肺ストレッチについての動画を配信しました。肺年齢チェック、あいうべ体操、スマイル体操、ペットボトル体操、448呼吸と5つの項目があります。



YouTubeを見る環境のない方のため、また、特にきんちゃい体操を班会で行いたい大きな画面でないとわかりにくいなどという要望に応え、アップした動画をまとめたDVDも作成中です。

グリーンコープ生協おかやま

地区組合員総会を開催

各地区で地区組合員総会を開催しました。開催方法は、オンラインのみでの開催、会場とオンライン併用での開催、と主催する地区毎に検討しました。

直接出会うこと、画面越しに出会うこと、参加方法に違いはあっても、一人ひとりの想いを大切にしながら組合員活動を充実させ、生協の運営に活かしていくことが大切だと考えています。組合員一人ひとりの「夢ヲかたちに」していくために、これからも変わらず一歩一歩進めて行きたいと思っています。



就実生協

オンライン版 新入生交流会 2021

入学直前となる3月下旬に3日間で全6回の新入生交流会を実施し、約100名の新入生が参加しました。もちろん、実施方法はオンラインです。Zoomミーティングを利用して6人前後の小グループに別れて自己紹介やアイスブレイク等を通じて新入生同士、先輩との関係を深めました。

企画・運営を行った生協学生部seedS（シーズ）のメンバーは、パソコンやスマホの画面越しとなるオンラインならではの盛り上げ方や進行の仕方を、何度もリハーサルしながら工夫して準備を行いました。準備の甲斐もあって、当初は60分の予定でしたが、ほとんどのグループが30分以上延長して交流会が続きました。

コロナの影響が続く中、これからも創意工夫して就実生の学生生活を応援していきたいと思います。



岡山県労済生協 (こくみん共済coop岡山推進本部)

「防災・減災への取り組み」を継続実施中

新型コロナウイルス感染症対策を実施した上で、2020年度も引き続き「防災・減災への取り組み」を展開しました。12月11日(金)に天城子どもの家(天城保育園)にて避難訓練を実施。園児と保育士を中心に約70名で、煙体験ハウスにて火災発生時の避難方法や煙の怖さについて体験いただきました。



また、岡山大学・岡山市と「産・官・学」連携の取り組みとして開発した「ぼうさいPiPi!ダンス」も岡山大学の学生とともに披露しました。



このダンスは、地震防災訓練の動き(シェイクアウト)を取り入れたダンスで、園児・保育士と練習し、最後は全員でダンスを踊りました。

引き続き地域へのお役立ち活動、社会活動を展開するとともに、協同組合らしい情報発信を継続していきます。

岡山県学校生協

教育支援事業として、出前授業「南極クラス」を開催

各学校、ミサワホームグループ、国立極地研究所のご協力をいただき、子どもたちに夢と希望を届ける「南極クラス」を、2021年は郷内中学校、多津美中学校、六条院小学校で開催しました。今後も、南極観測の意義や自然環境を守る大切さなどを学習できる「南極クラス」を教育支援事業として引き続き推進してまいります。



三井造船生協

使用済み切手・コイン募金寄贈

3月10日(水)、三井生協家庭会 和田睦子会長と藤原キヌ子福祉委員会リーダーが、「日本キリスト教海外医療協力会」の窓口となる「岡山博愛会病院」を訪問し、三井生協の店頭で集めた使用済み切手とコイン募金の寄贈を行いました。この寄贈は毎年行われており、今年の使用済み切手5.5kgとコイン募金55,176円を更井理事長へ手渡しました。

寄贈された使用済み切手は、切手商や切手収集家の方々に買い取ってもらい、換金したお金は、ワーカー派遣、奨学金支援、協働プロジェクトなど国際保健医療協力活動のために役立てられます。



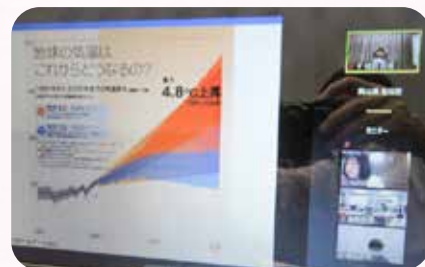
気候危機の現状と課題、私たちが2050年までにめざす「脱炭素社会」について学びました。



県生協連組織委員会主催で、会場参加とZoomでのオンライン参加のハイブリッド型学習会として、3月12日(金)に開催しました。オルガホールでの会場参加と各会員生協でオンライン参加のためのサテライト会場を計4カ所設置するとともに個人でのオンライン参加も含め35人が参加しました。

テーマは、「気候危機の現状と課題、脱炭素に向かう世界、私たちが2050年までにめざす『脱炭素社会』って何?」と題して、気候ネットワークの田浦健朗事務局長に講演いただきました。講演では、現在、地球が抱えている気候危機の現状、温室効果ガス削減に向けた世界の動き

や先進事例、日本国内での様々な動きや課題などについて解説した後、私たちができることなどについて触れられました。まとめとして、平均気温の上昇を1.5℃に抑えなければ深刻な状況になること、パリ協定に沿って世界では「脱炭素」「自然エネルギー100%」への転換が起きつつあること、国内の自治体で2050年排出実質ゼロ宣言が増えていること、温暖化対策自体が生活の向上、雇用の促進、地域の活性化につながっていることなどを挙げ、家庭や職場、地域で自然エネルギー100%をめざし、脱炭素社会の経済とくらしに向けた大転換をすすめることが必要なことなどを学びました。



「消費者月間講演会」を開催し、日常のお金に関わる生活の新しい方式やつきあい方について学びました。

延期になっていた「消費者月間講演会」を3月23日(火)に、消費者ネットおかやまと県消団連の主催、岡山県との共催で開催しました。オルガ会議室の会場参加とYouTubeライブ配信のハイブリッド型学習会として開催し、合わせて57人が参加しました。

テーマは「これからどうつきあっていく? With 銀行・金融商品・キャッシュレス」と題して、大阪府金融広報アドバイザーの大久保育子消費生活相談員に講演いただき、私たちの日常のお金に関わる生活が新しい方式や新しいつきあい方



が変わってきている中、何がどのように変わろうとしているのか、その特徴や問題点は何かなどについてわかりやすく話していただきました。最初に地銀の統合促進やメガバンクの業務効率化など合理化が進む銀行とのこれからのつきあい方として、銀行口座の整理の他、金融リテラシーとともに情報リテラシーを磨く必要があることなど、わかりやすく解説した後、キャッシュレスとのつきあい方として、キャッシュレス決済の種類と特徴の説明やキャッシュレス決済利用の注意点として、決済方法により適用法律が違ふことからトラブル時のルールが異なることを具体的な事例をもとに解説がありました。また、金融商品に関してはトラブル事例から問題点を浮き彫りにする中で、手数料や単利と複利などポイントとなる点などについて学びました。

参加者からは、「このような内容での講演会は初めてだったので、大変勉強になった。とても中身が濃いものだったので、この続きを聞きたいと思った」など感想が寄せられました。